

「かながわ水源地域活性化計画」に基づく 令和4年度の実施状況

神奈川県政策局政策部土地水資源対策課

目次

1 令和4年度の取組状況の概要.....	4
2 目標値.....	5
3 取組の内容.....	6
取組1 クロスメディアによる情報発信.....	6
取組2 特産品への支援.....	8
取組3 水源地域の「魅力」を発信できる人々への支援.....	10
取組4 「連携・協働」を支援する体制の整備.....	12
取組5 「地域資源」を生かしたイベント等への広報支援.....	16
取組6 エリアごとの「魅力」を生かした事業の支援.....	18
取組7 交流を通じた共通理解の促進.....	20
取組8 教育活動を通じた共通理解の促進.....	26

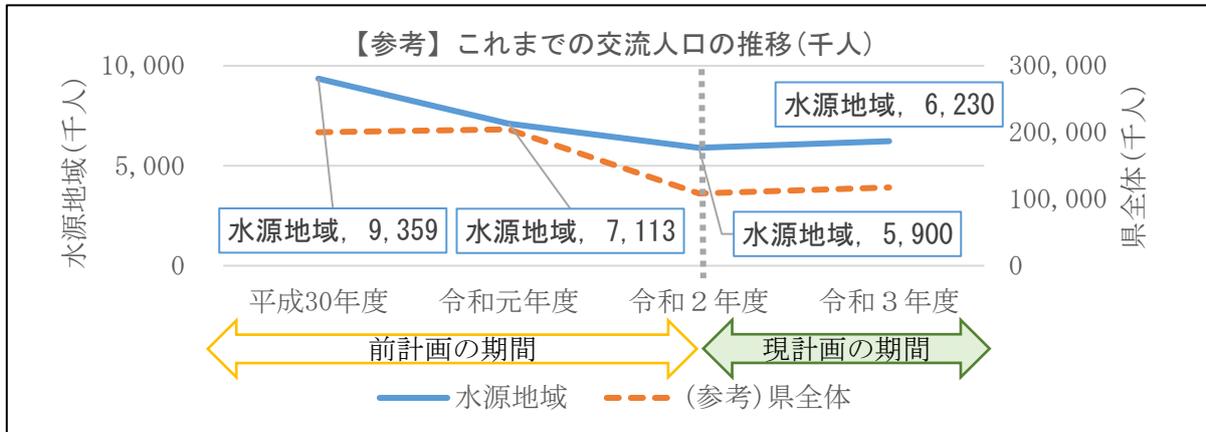
1 令和4年度の取組状況の概要

施策	取組	事業	実施内容	実施状況	予算(千円)	
					協議会	県
水源地域の活性化	クロスメディアによる情報発信	ポータルサイト等による情報発信促進事業	ポータルサイトの運営	実施	2,500	1,078
			SNSの活用	実施		
			戦略的な発信方法の検討	実施		
			情報発信における連携	実施		
			交流施設に関する情報の発信	実施		
	特産品への支援	水源地域の特産品支援事業	「やまなみグッズ」のブランドイメージ(価値)の向上	実施	1,805	—
			戦略的なPRの実施	実施		
			「水源地域のブランド」としての連携	実施		
	水源地域の魅力を発信できる人々への支援	かながわ水源地域の案内人事業	「かながわ水源地域の案内人」の創設	実施	—	80
			連絡会議の開催	実施		
案内人同士の連携の促進			実施			
連携・協働を支援する体制の整備	水源地域と都市地域の連携・協働支援事業	水源地域に対するニーズの調査	実施	—	799	
		水源地域に興味を持つ都市地域住民又は団体の発掘	実施			
		「連携・協働」に向けた仕組みづくり	実施			
		コーディネーター(組織・人)の検討	実施			
地域資源を生かしたイベント等への支援	水源地域イベントPR事業	水源地域の「体験・交流イベント」としての一体的なPR	実施	—	0	
		マッチングの強化	実施			
	エリアごとの魅力を生かした事業の支援		エリア活性化事業	応募なし	—	1,500
水源環境の理解促進	交流を通じた共通理解の促進	体験交流支援事業	体験・交流プログラム等への支援	実施	—	4,833
			都市地域住民の参加促進	実施		
	教育活動を通じた共通理解の促進	小中学校等交流事業	小中学校等交流の実施	実施	—	950
			交流の促進・持続	実施		
		水源地域を学ぶ体験学習事業	体験学習の実施	実施		
			事業の拡大に向けた検討	実施		
		その他(会議開催費等)		57	131	
			小計	4,362	9,371	
			予算計		13,733	

2 目標値

【水源地域への交流人口(水源地域への来訪者数)】

- 令和3年度の交流人口は、623万人でした。
- 本計画の目標値である令和7年度の918万人までは、295万人の増加が必要です。



	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
水源地域	935万9千人	711万3千人	590万人	623万人
(参考)県全体	2億26万4千人	2億466万8千人	1億848万6千人	1億1725万1千人

【来訪者の満足度※1】

- 令和4年度の満足度は95.2%でした。
- 本計画の目標値である、計画期間内の年度ごとに80%以上となることについて、令和4年度の目標を達成しています。

取組名	事業名	満足度の内容	満足度
「地域資源」を生かしたイベント等への広報支援	水源地域イベントPR事業	支援したプログラム等への参加者の満足度	95.2%※2
交流を通じた共通理解の促進	体験交流支援事業	支援したプログラム等への参加者の満足度(A)	97.5%
	水源地域理解促進事業	キャンペーン等への参加者の満足度(B)	88.1%
教育活動を通じた共通理解の促進	小中学校等交流事業	参加者の満足度(C)	95.7%
	水源地域を学ぶ体験学習事業	体験学習等への参加者の満足度(D)	99.3%

※1 来訪者の満足度は、計画上の各取組の実績として把握した満足度から平均値を算出しました。

※2 相互連携し実施する、A、B、C、Dの満足度から算出

	令和3年度
満足度(全体)	96.0%

3 取組の内容

取組 1 クロスメディアによる情報発信

構成事業 1 ポータルサイト等による情報発信促進事業

【計画における記載内容(抜粋)】

1 目的

ポータルサイトを運営するとともに、SNSを活用し、水源地域の「魅力」を戦略的に発信していきます。

あわせて、情報発信の連携並びに各種発信媒体の連携を図り、クロスメディアの観点から水源地域の「魅力」を効果的かつ効率的に発信していきます。これらにより水源地域への来訪者の増加を図ります。

2 事業内容

① ポータルサイト「神奈川やまなみ五湖navi」の運営

四季折々の情報やイベント情報等を組み合わせ、水源地域に行きたくなる情報を発信するポータルサイト「神奈川やまなみ五湖navi」を運営していきます。

② SNSの活用

閲覧者を「神奈川やまなみ五湖navi」、又は水源地域市町村の観光情報サイト等へ誘導するツールとして、SNSを活用していきます。

③ 戦略的な発信方法の検討

ポータルサイト「神奈川やまなみ五湖navi」及びSNSにおける発信力を強化していくために、本県の水源地域としての認知度を高める発信のあり方を検討していきます。

④ 情報発信における連携

水源地域市町村の観光情報サイト等と掲載情報及び掲載方法等の連携を図り、効率的な情報発信を行っていきます。

また、クロスメディアによる効果的な情報発信も進めていきます。

⑤ 交流施設に関する情報の発信

施設の周辺情報やイベント情報等の様々な情報を発信していきます。

3 把握する実績」

- ポータルサイト「神奈川やまなみ五湖navi」へのアクセス数
- 各種SNSの投稿に対するアクセス数、エンゲージメント数

【取組状況】

1 令和4年度の実施状況
ポータルサイト「神奈川やまなみ五湖navi」の運営
・ 特集記事(相模湖、案内人)の作成・掲載(11~12月掲載)
SNSの活用
・ Twitter、Facebookによるイベント情報等の発信(1月時点で計40件)
戦略的な発信方法の検討
・ SNS運用の見直し(Instagramアカウントを2月開設)
情報発信における連携
・ 各種広報物にポータルサイトのQRコードの掲載
・ 湖をテーマにした水源地域の魅力を発信する動画の放映
→ ・ 厚木市デジタルサイネージ(9~3月)
・ 小田原市デジタルサイネージ(10~11月、1~2月)
・ 海老名サービスエリア(下り)(11月)
・ 県民センター(11月)
・ 川崎競馬場での協賛レースの実施
→ やまなみ五湖賞(8月26日)
・ 各種媒体による水源地域の情報発信
→ 県のたより、TVK(テレビ神奈川)、タウンニュース 等
交流施設に関する情報の発信
・ イベント情報等の発信
2 実績
ポータルサイト「神奈川やまなみ五湖navi」へのアクセス数
○ 月平均31,750件(4月から12月までの平均値)
Twitterの投稿に対するインプレッション数(投稿が他のユーザーの目に触れた回数)
○ 1投稿平均1,249件(4月から1月までの投稿の平均数)
3 課題
水源地域の「魅力」として水源地域におけるイベント情報等を継続して発信しています。コロナ対策を講じて開催されるイベントが増えてきたことも踏まえて、ポータルサイトやSNSを活用してどのような情報をどのように発信すると、より多くの人目にとまるのかを引き続き検討する必要があります。

取組2 特産品への支援
構成事業1 水源地域の特産品支援事業

【計画における記載(抜粋)】

1 目的

水源地域の素材や自然の恵みを生かした「やまなみグッズ」のブランドイメージ(価値)の向上を図ります。また、ブランドイメージの戦略的なPRを実施するとともに、他の水源地域市町村の特産品と合わせて「水源地域のブランド(特産品)」として一体的なPRを実施していきます。これらにより、特産品を通じた水源地域の「魅力」の発信と地場産品の消費拡大を図ります。

2 事業内容

① 「やまなみグッズ」のブランドイメージ(価値)の向上

「やまなみグッズ」のブランディングを強化していきます。

② 戦略的なPRの実施

「取組1 クロスメディアによる情報発信」と連携し、「やまなみグッズ」のブランドイメージを戦略的にPRしていきます。

あわせて、「やまなみグッズ」を手にする機会を増やしていきます。さらには、イベント等への「やまなみグッズ」の出品を推進していきます。

③ 「水源地域のブランド」としての連携

水源地域市町村が個別にブランド認定している特産品と連携し、「水源地域のブランド(特産品)」として一体的にPRすることで、各ブランドに対する認知度の向上に努めていきます。

3 把握する実績

○ 「やまなみグッズ」に対する認知度(県民へのアンケート等により把握)

【取組状況】

1 令和4年度の実施状況								
「やまなみグッズ」のブランドイメージ(価値)の向上								
<ul style="list-style-type: none">やまなみグッズ審査委員会の実施(やまなみグッズの新規認定)<ul style="list-style-type: none">→ 1件(内訳：調味料1件)の新規認定新規認定されたやまなみグッズを含めた広報用パンフレットの改定(3月実施予定)								
戦略的なPRの実施								
<ul style="list-style-type: none">ねんりんピックかながわ2022での出店支援(11月12日～11月13日)<ul style="list-style-type: none">→ 販売品目6品目(内1品目はやまなみグッズ以外の品目)、総売上160,800円かながわの水源地域キャンペーン(令和4年11月19日(土)(再掲)<ul style="list-style-type: none">→ やまなみグッズ企画展(総販売数382点 出展業者数：6事業者)								
「水源地域のブランド」としての連携								
<ul style="list-style-type: none">クロスメディアによる情報発信と連携で、水源地域市町村が個別にブランド認定している特産品のPR等を検討。								
2 実績								
○ 「やまなみグッズ」に対する認知度(県民へのアンケート等により把握) やまなみグッズの認知度に関するアンケート調査 (11月実施、かながわの水源地域キャンペーン、有効回答数138件)								
<table border="1"><thead><tr><th>知っていた</th><th>このイベントで初めて知った</th><th>知らなかった</th><th>無回答</th></tr></thead><tbody><tr><td>18件 (12.9%)</td><td>92件 (65.7%)</td><td>28件 (20%)</td><td>2件 (1.4%)</td></tr></tbody></table>	知っていた	このイベントで初めて知った	知らなかった	無回答	18件 (12.9%)	92件 (65.7%)	28件 (20%)	2件 (1.4%)
知っていた	このイベントで初めて知った	知らなかった	無回答					
18件 (12.9%)	92件 (65.7%)	28件 (20%)	2件 (1.4%)					
3 課題								
やまなみグッズへの認知度が低い状況です。このため、やまなみグッズを中心とした水源地域の特産品のPRの場として、都市部のイベントや物産展への事業者の出店支援を行いました。事業者の出店希望が少なかったことや天候などが原因で、十分なPRを行うことができませんでした。 今後は、事業者のニーズを踏まえ、委託販売等の負担が少ない出店方法についての検討を行う等、認知度向上に向けての取組を継続的に実施していく必要があります。								

取組3 水源地域の「魅力」を発信できる人々への支援
構成事業1 かながわ水源地域の案内人事業

【計画における記載(抜粋)】

1 目的

水源地域で活動をする人又は団体を支援する「かながわ水源地域の案内人」制度を新たに創設し、登録された案内人への支援を行うとともに、案内人同士の連携を促していきます。これらにより、案内人の活動を通じた水源地域の「魅力」の発信を進め、来訪者の増加を図ります。

2 事業内容

① 「かながわ水源地域の案内人」の創設

「かながわ水源地域の案内人」を創設し、郷土芸能の名人、郷土工芸の匠、地域の食文化を担う人、体験教室の講師、又はまちおこしに取り組んでいる人等の水源地域における交流に関わる活動をしている人等の登録を促していきます。

② 連絡会議の開催

登録した案内人を対象に定期的に連絡会議を開催し、意見交換や各案内人が持つ課題の共有、事例研究、研修等を通して案内人の活動への支援を行います。

③ 案内人同士の連携の促進

連絡会議を通じて、案内人が連携(コラボレーション)し、新たな活動(事業)を行う場合には、その活動を支援することで、案内人同士の連携を促していきます。

3 把握する実績

- かながわ水源地域の案内人の登録者数
- 連絡会議の実施回数

【取組状況】

1 令和4年度の実施状況
「かながわ水源地域の案内人」の創設
・ 「かながわ水源地域の案内人」制度紹介動画を作成し、案内人への登録を促進（3月完成予定）
連絡会議の開催
・ 「かながわ水源地域の案内人」制度の運用及び案内人への支援策の検討のため、案内人会議を実施（10月4日） ・ 山北町における案内人後継者育成事業の実施（2月予定）
案内人同士の連携の促進
・ 「かながわ水源地域の案内人」制度の運用及び案内人への支援策の検討のため、案内人会議を実施（10月4日）（再掲）
2 実績
かながわ水源地域の案内人の登録者数
○ 14者（案内人12名、団体2団体）
連絡会議の実施回数
○ 1回
3 課題
「かながわ水源地域の案内人」制度運用及び案内人への支援策の実現に向け、引き続き関係者との丁寧な調整を実施していく必要があります。 また、案内人の登録者数を増やしていくためにも、今後は案内人制度の周知についても重点を置く必要があります。

取組4 「連携・協働」を支援する体制の整備
構成事業1 水源地域と都市地域の連携・協働支援事業

【計画における記載(抜粋)】

1 目的

水源地域における水源地域住民と都市地域住民の「連携・協働」を支援する体制を整備することにより、都市地域の住民又は団体が、水源地域を訪れるだけに留まらず、水源地域で主体的に活動してもらうことで、水源地域の一層の活性化と取組の継続を目指します。

2 事業内容

① 水源地域に対するニーズの調査

都市地域住民に対して、水源地域を訪れる目的や水源地域で体験したいこと等の水源地域に対するニーズを調査します。

② 水源地域に興味を持つ都市地域住民又は団体の発掘

都市地域において、水源地域での活動や水源地域の魅力等に関するシンポジウム・ワークショップ等を開催することにより、水源地域での活動に興味を持つ都市地域の住民等を発掘し、水源地域のサポーターとして位置付けていきます。

③ 「連携・協働」に向けた仕組みづくり

水源地域での活動に興味を持つ都市地域の住民等と水源地域で活動している住民等をマッチングさせることにより、都市地域住民が水源地域に対して求めているニーズに応え、水源地域の一層の活性化と取組の継続を図ります。

また、これにより都市地域の住民等が水源地域でのイベント等に主体的に携わることで、都市地域住民と水源地域住民の交流の促進を目指します。

さらに、マッチングにより実現したイベント等を積極的に支援していくことで、都市地域の住民等の参加を促進していきます。

④ コーディネーター(組織・人)の検討

「③ 『連携・協働』に向けた仕組みづくり」で実施するマッチングを担うコーディネーターの発掘・育成について検討を進めていきます。

3 把握する実績

- 「取組5 『地域資源』を生かしたイベント等への広報支援」で把握する実績
- 「取組7 交流を通じた共通理解の促進」で把握する実績

【取組状況】

1 令和4年度の実施状況
水源地域に対するニーズの調査
<ul style="list-style-type: none">令和4年度 神奈川県「県民ニーズ調査」(第2回課題調査)の一環として実施(11月実施、県内在住の満18歳以上3,000人(無作為抽出)を対象、有効回答数1,277件)(別表1参照)かながわの水源地域キャンペーン内で実施したアンケートによりニーズを把握(11月実施、有効回答数140件)(別表2参照)
水源地域に興味を持つ都市地域住民又は団体の発掘
<ul style="list-style-type: none">「かながわの水源地域キャンペーン」を開催し、水源地域に係るパンフレット・パネルの設置や、水源地域特産品である「やまなみグッズ」の出展、体験教室の実施等により、都市地域住民に対し水源地域の魅力を発信すると共に、水源環境への理解を促進した。(11月19日)
「連携・協働」に向けた仕組みづくり
<ul style="list-style-type: none">「かながわ水源地域の案内人」制度紹介動画を作成し、案内人への登録を促進(3月完成予定)(再掲)
コーディネーター(組織・人)の検討
<ul style="list-style-type: none">主に都市地域の組織・人を活用することを想定とした、観光部局との連携体制の構築を検討
2 実績
「取組5 『地域資源』を生かしたイベント等への広報支援」及び「取組7 交流を通じた共通理解の促進」の実績を参照
3 課題
<p>「かながわの水源地域キャンペーン」の開催により水源地域に興味を持つ都市地域のサポーターの発掘を、案内人制度紹介動画の制作等により水源地域での活動を支援する案内人制度の周知を行い、都市地域・水源地域住民双方が水源地域の活動に興味を持つ環境づくりを行ってきたところです。</p> <p>今後は、これらの住民を結びつけるためのコーディネーターとなりうる組織・人材の掘り起こしのため、関係団体との連携体制等の構築を引き続き検討していく必要があります。</p>

(別表 1)

問 1 県の「やまなみ五湖」に関する観光やグルメなどの情報収集をする場合、その手段を利用したいと思いますか。(複数回答)						
パンフレット	ポスター	ホームページ	インターネットメール (メールマガジン)	ソーシャルメディア	その他	わからない
412件 (32.3%)	232件 (18.2%)	676件 (52.9%)	257件 (20.1%)	420件 (32.9%)	25件 (2.0%)	120件 (9.4%)
問 2 「やまなみグッズ」を買ってみたいと思いますか。(択一回答)						
そう思う	そう思わない	どちらともいえない	そもそも知らなかった	分からない	無回答	
151件 (11.8%)	149件 (11.7%)	226件 (17.7%)	652件 (51.1%)	85件 (6.7%)	14件 (1.1%)	
問 3 工芸品の職人や体験教室の講師など、水源地域の魅力を発信する様々な活動をしている人と現地で交流する場合、どのようなことを体験したいですか。(複数回答)						
ダム湖などの現地案内	農作物などの収穫体験	水源林の保全体験	工芸品などの工作体験	水源林の役割などの水源学習	その他	特にない
533件 (41.7%)	429件 (33.6%)	269件 (21.1%)	536件 (42.0%)	323件 (25.3%)	11件 (0.9%)	225件 (1.2%)

(別表2)

問1 お住まいはどちらですか。(択一回答)								
横浜市内		川崎市内		その他 県内市町村		神奈川県外		
32件 (22.9%)		88件 (62.9%)		3件 (2.1%)		17件 (12.1%)		
問2 かながわの水源地域キャンペーンの感想を教えてください。(択一回答)								
満足 (楽しかった)	やや満足(まあまあ楽しかった)	やや不満(あまり楽しくなかった)	不満 (楽しくなかった)	無回答				
75件 (53.6%)	59件 (42.1%)	2件 (1.4%)	0件 (0%)	4件 (2.9%)				
問3 「やまなみ五湖」(県の北西部にあるダム湖の、相模湖、奥相模湖、津久井湖、丹沢湖、宮ヶ瀬湖の総称)という言葉を知っていますか。(択一回答)								
知っていた	このイベントで初めて知った		知らなかった		無回答			
50件 (35.7%)	73件 (52.1%)		15件 (10.7%)		2件 (1.4%)			
問4 「やまなみグッズ」(やまなみ五湖周辺地域の素材や自然の恵みを生かした食品・工芸品などの特産品)という言葉を知っていますか。(択一回答)								
知っていた	このイベントで初めて知った		知らなかった		無回答			
18件 (12.9%)	92件 (65.7%)		28件 (20%)		2件 (1.4%)			
問5 やまなみ五湖周辺地域に行く場合、体験したいと思うものは何ですか。(複数回答)								
野外活動 自然体験	施設見学 水源学習	名所 観光	イベント 参加	スポーツ	釣り	グルメ	その他	特になし
59件 (42.1%)	62件 (44.3%)	58件 (41.4%)	38件 (27.1%)	25件 (17.9%)	23件 (16.4%)	69件 (49.3%)	3件 (2.1%)	1件 (0.7%)

取組5 「地域資源」を生かしたイベント等への広報支援
構成事業1 水源地域イベントPR事業

【計画における記載(抜粋)】

1 目的

水源地域の「魅力」の1つであるイベント等を広報の面から支援することで、水源地域への来訪者の増加を図ります。

2 事業内容

① 水源地域の「体験・交流イベント」としての一体的なPR

「取組1 クロスメディアによる情報発信」と連携し、水源地域で実施される交流イベントや体験ツアー等を網羅的・一体的に発信していきます。

なお、情報発信を行うイベント等は、水源地域のみどり、清流及び湖等の豊かな自然や、水源地域に伝えられてきた芸能及び工芸等の郷土文化等の「地域資源」を生かしたものを主な対象とします。

② マッチングの強化

水源地域で1年間に開催されるイベント等を内容(イベントの種類等)や時期ごとに整理して可視化することで、「水源地域で出来ること」を分かりやすく発信していきます。

これにより、来訪者が自身のニーズに合ったイベント等を見つけやすくし、来訪者と水源地域のマッチングを促していきます。

3 把握する実績

- 支援したイベント等への参加者数
- 参加者の満足度

【取組状況】

1 令和4年度の実施状況
水源地域の「体験・交流イベント」としての一体的なPR
<ul style="list-style-type: none">・ イベントや商業施設等で水源地域のイベントに関するPRパンフレット配布・ 水源地域におけるイベントに係る年間カレンダーの掲載（継続）
マッチングの強化
<ul style="list-style-type: none">・ 水源地域におけるイベントに係る年間カレンダーの掲載（継続）
2 実績
支援したイベント等への参加者数
209,775人
参加者の満足度
<ul style="list-style-type: none">・ 95.2% <p>※ 相互連携して実施する、「取組7 交流を通じた共通理解の促進」、「取組8 教育活動を通じた共通理解の促進」において集計した満足度から算出</p>
3 課題
コロナ対策を講じて開催されるイベントが増えてきました。コロナ禍におけるPR方法と併せて、参加者の満足度をどのように把握していくか検討が必要です。

取組6 エリアごとの「魅力」を生かした事業の支援

【計画における記載(抜粋)】

1 目的

水源地域を3つのエリアに分け、エリアごとの新たな「魅力」(資源)を発掘し、エリアとしての「魅力」を高めるために事業化するとともに、その「魅力」を積極的に発信していくことで、水源地域への来訪者の増加を図ります。

2 事業内容

ア 津久井エリア

相模原市が策定した諸計画とそれに基づく取組を踏まえ、市や地域住民、民間団体、民間事業者等と連携しながら、地域の豊かな自然、歴史や文化を生かし、新たな「魅力」の発掘と発信を行うとともに、多様な体験・交流型観光を実施します。

交流の拠点となる相模湖交流センター、津久井湖観光センター、藤野芸術の家等については、これらの資源を核として地域課題の解決や水源地域を訪れる機会の増加に向けた取組を持続的に実施していくため、「魅力と利便性の向上」を図ります。

また、交通利便性の高さやリニア中央新幹線の開通による広域交通ネットワークの充実を見据え、ワーケーション等の新たなビジネススタイルの推進など、更なる交流人口・関係人口の創出や移住定住の促進に貢献できる取組を実施します。

これらの取組の推進に当たっては、民間のノウハウや資金の活用なども図りながら、効果的かつ効率的な「水源地域の活性化」と「水源環境の理解促進」を進めていきます。

イ 宮ヶ瀬エリア

公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団を中心とする観光地域づくり法人(DMO)とのネットワークを基盤に、市町村、県、民間団体、企業等がそれぞれの事業を連携させながら、観光において必要不可欠な要素である食と豊かな自然に囲まれた公共施設(インフラストラクチャー)を組み合わせて周遊型観光(インフラツーリズム)を実施します。

地場産品を活用した魅力ある特産品の開発や既存の特産品の地域展開を促すとともに、観光地としてブランド力が高まっている宮ヶ瀬ダムを中心に、宮ヶ瀬やまなみセンターや鳥居原ふれあいの館、県立あいかわ公園、道の駅清川等の周辺施設の「魅力」を生かした「周遊ルートを形成」し、エリア全体の活性化を図ります。

また、アクセスの良さを生かしたマイクロツーリズムやワーケーションの推進など、交流につながる新たな需要の開拓にも取り組んでいきます。

ウ 山北エリア

山北町と県、都市部の自治体、地域住民、民間団体等が連携しながら、豊かな水を育む水源林を活用し、水源環境に対する共通の理解を深めていく体験学習や水源地域と都市地域の交流事業を実施していきます。

森林資源を活用した体験教室等は、水源地域の「魅力」を肌で感じることができ、また水源地域の役割を知り、水源地域の重要性を学ぶことができる非常に大切な事業です。

こうした事業の実施を通して、「水源地域を知り、学ぶ場」として同エリアの「魅力」を高めていきます。

また、(仮称)山北スマートインターチェンジの開通を控えていることも踏まえ、この森林資源を生かした新たな事業も検討していきます。

【取組状況】

1 令和4年度の実施状況

地域からの提案（自然体験交流事業）に対する支援

- ・ 支援要望なし

新たな事業提案に向けた周知活動等

- ・ 案内人会議における補助制度の周知、説明
- ・ 水源地域活性化推進協議会事務担当者意見交換会における補助制度説明
- ・ 今後実施を希望する団体への個別制度説明
- ・ 水源地域の案内人個人を実施主体に加える等の制度改正

2 課題

新たに地域からの事業提案に対する支援制度を整備しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響等で、地域から積極的な提案が出づらいつつ状況にあります。

新たな提案を促すための一部制度改正や周知活動を行っており、引き続き興味を持つ団体等に対して丁寧な説明を実施していきます。

取組 7 交流を通じた共通理解の促進
構成事業 1 体験交流支援事業

【計画における記載(抜粋)】

1 目的

水源地域の豊かな自然や歴史のある郷土文化等に触れ合う機会を通じて、水源地域住民と都市地域住民が水源環境に対する理解を深め、水源地域への認識を共有していくことを目指します。

2 事業内容

① 体験・交流プログラム等への支援

水源地域での体験・交流を目的としたプログラムやイベントへの支援を行います。

なお、これらのプログラム等は、水源地域の豊かな自然を活用した自然・生物観察会、又は水源林の間伐作業等のメニュー、若しくは郷土文化を活用した水源地域の暮らしを体験するメニューなど、「水源環境への理解促進」につながるものとしていきます。

② 都市地域住民の参加促進

都市地域の自治体と連携し、都市地域住民の「① 体験・交流プログラム等への支援」の対象となるプログラム等への参加を促していきます。

また、参加者のニーズを反映させていくため、アンケートの実施等によりプログラム等に対する参加者の意見を聴取していきます。

3 把握する実績

- 支援したプログラム等への参加者数
- 支援したプログラム等への参加者の満足度

【取組状況】

1 令和4年度の実施状況(令和5年2月1日現在)		
体験・交流プログラム等への支援		
<ul style="list-style-type: none"> 自然体験交流事業：計19事業(うち、7事業が中止※)(別表3参照) 水源地域の豊かな自然や生物多様性の大切さを実感し、郷土文化とふれあう場を都市地域住民に提供する、体験を重視したイベントへの支援 自治体間交流事業：計9事業(うち、4事業が中止※)(別表4参照) 水源地域市町村が企画する地域住民との体験交流事業へやまなみ五湖の水を水道水として利用している都市地域市町の住民の参加を支援 <p>※ 新型コロナウイルス感染症の影響により中止になったプログラム等も含む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水源地域の案内人個人を実施主体に加える等の制度改正(再掲) 		
都市地域住民の参加促進		
<ul style="list-style-type: none"> 参加者満足度調査を実施 		
2 実績(令和5年2月1日現在)		
支援したプログラム等への参加者数		
	プログラム数	参加者数
自然体験交流教室事業補助	19件	103人
自治体間交流事業補助	9件	87人
計	28件	190人
支援したプログラム等への参加者の満足度		
	満足度	※ 令和5年2月1日時点で実施報告を受けたプログラムから集計
自然体験交流教室事業補助	98.0%※	
自治体間交流事業補助	97.2%※	
計	97.5%※	
<p>○ 満足度は、参加者の回答について、「満足又は楽しかった」(A)を100%、「やや満足又はまあまあ楽しかった」(B)を75%、「やや不満又はあまり楽しくなかった」(C)を25%、「不満又は楽しくなかった」(D)を0%として、次の計算式で算出した。</p> $\frac{100\% \times A \text{の回答数} + 75\% \times B \text{の回答数} + 25\% \times C \text{の回答数} + 0\% \times D \text{の回答数}}{\text{回答数の合計}}$		
3 課題		
<p>「自然体験交流事業」及び「自治体間交流事業」の補助金交付に係る手続きについて、関係団体より事務が煩雑で分かりにくいと声が挙がっていることが課題となっています。</p>		

(別表3)自然体験交流教室事業(エリアごとの「魅力」を生かした事業は除く)

	イベント名	市町村等	開催日	人数
1	和田の里自然体験交流教室 ～こいこい祭り～	相模原市 (藤野地区)	令和4年5月3日、4日	65人
2	やまなみ五湖体験ツアー 「茶摘み手もみ茶づくり体験」	相模原市 (藤野地区)	令和4年5月22日(日)	申請無
3	地元の野生動物の革で 小物を作ろう	相模原市 (津久井地区)	令和4年5月 ～令和5年3月(全10回)	実施中 (集計中)
4	城北・里山自然体験教室	相模原市 (城山地区)	令和4年6月18日	中止※
5	川とのふれあい体験教室	相模原市 (津久井地区)	令和4年7月3日	中止※
6	かながわ水源地域の案内人と遊ぼう教室	相模原市 (津久井地区)	令和4年6月～ 令和5年1月	実施済 (集計中)
7	ニローネBBまつり	相模原市 (津久井地区)	令和4年8月上旬	中止※
8	ペルセウス座流星群観測会	相模原市 (津久井地区)	令和4年8月10日、11日	17人
9	緑のダム体験学校	相模原市 (相模湖地区)	令和4年8月20日、21日	21人
10	小松自然体験教室	相模原市 (城山地区)	令和4年10月8日、9日、 15日、16日	実施済 (集計中)
11	津久井わくわく冒険隊	相模原市 (津久井地区)	令和4年10月15日	実施済 (集計中)
12	寄せ植え体験教室	相模原市 (津久井地区)	令和4年10月22日、 11月3日、13日	実施済 (集計中)
13	第15回藤野ふる里まつり 自然体験教室	相模原市 (藤野地区)	令和4年10月23日	中止※
14	和田の里自然体験交流教室 「ふじの自産自消を楽しむ会」	相模原市 (藤野地区)	令和4年10月 ～令和5年3月	実施中 (集計中)
15	ふじの里山古民家ツアー	相模原市 (藤野地区)	令和4年11月20日	中止
16	野生動物の命を余すことなくいた だこう	相模原市 (津久井地区)	令和4年12月17日、 令和5年2月26日	実施中 (集計中)
17	しいたけ・ひらたけ 菌打ち体験教室	山北町	令和4年12月	中止※
18	自然体験交流教室 「ふじの里山ウォーキング」	相模原市 (藤野地区)	令和5年3月18日	実施 予定
19	三保地区自然体験教室	山北町	令和4年	中止※

(令和5年2月1日現在)

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により中止

(別表4) 自治体間交流事業

	組合せ	内容	開催日	参加人数
1	相模原市(津久井地区) — 厚木市		6月	中止※
2	山北町 — 座間市	果樹等もぎ取り体験、夏野菜カレー作り、 水源地域説明、トールペイント体験、スイ カ割り	7月30日	6人
3	相模原市(藤野地区) — 伊勢原市		8月1日	中止※
4	清川村 — 厚木市		9～10月	中止※
5	相模原市(藤野地区) — 厚木市	相模湖遊覧船乗船、さつまいも掘り体験、 芸術の道散策、藤野園芸ランド遊歩道散 策	10月26日	14人
6	相模原市(城山地区) — 厚木市		10月	中止※
7	愛川町 — 藤沢市	藍染体験教室、愛川町郷土資料館見学、宮 ヶ瀬ダムの外観及び観光放流見学、宮ヶ 瀬ダム堤体内見学、宮ヶ瀬ダム水とエネ ルギー館にてレクチャー	11月16日	25人
8	愛川町 — 伊勢原市	藍染体験教室、愛川町郷土資料館見学、宮 ヶ瀬ダムの外観見学、宮ヶ瀬ダム堤体内 見学、宮ヶ瀬ダム水とエネルギー館にて レクチャー	11月22日	18人
9	山北町 — 厚木市	キャンプ飯づくり、薪割り体験、みかん狩 り	12月17日	24人

(令和5年2月1日現在)

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により中止

構成事業 2 水源地域理解促進事業

【計画における記載(抜粋)】

1 目的

都市地域において、水源地域のPRを目的とするキャンペーンやイベントを積極的に行うことにより、広く県民に水源地域の「魅力」を発信するとともに、キャンペーン等における交流を通じて、水源環境に対する理解を深め、水源地域への認識を共有していくことを目指します。

2 事業内容

都市地域において、郷土芸能の実演や体験教室の開催、特産品の展示販売、観光情報の発信等を内容としたキャンペーン等を実施し、都市地域住民に水源地域の「魅力」を発信します。また、都市地域の水需要をまかなうためにダム湖が造られ、水道水が供給されているという県内水資源の状況及び水源環境の役割等をPRしていきます。

なお、実施にあたっては、例えば、水源地域のサポート制度を設けるなど、水源地域住民やNPO等の民間団体、企業、大学等との連携・協働を検討していきます。

3 把握する実績

- キャンペーン等への参加者数
- キャンペーン等への参加者の満足度

【取組状況】

1 令和4年度の実施状況

かながわの水源地域キャンペーン

日時 令和4年11月19日(土)

場所 川崎アゼリア(川崎市川崎区)

概要 ・水源地域PR

パンフレット類による水源地域の観光情報等の提供、啓発パネルの展示及び神奈川県水源環境保全・再生イメージキャラクター「かながわしずくちゃん」による広報等を実施した。

・やまなみグッズ企画展

(総販売数：382点 出展業者数：6事業者)

やまなみグッズを出展し、水源地域の特産品のPRを実施した。

・体験教室(参加者数：101人)

水源地域の素材を活用した竹細工・革細工体験教室について、「かながわ水源地域の案内人」に講師を依頼の上実施した。

・アンケート(回答者数：141人)

水源地域に関するアンケートを実施し、回答者にアメニティを配布した。

・他団体との連携

神奈川県内広域水道企業団のブースを設置し、パンフレットによる情報提供や、水缶配布などのPRを行った。

2 実績

キャンペーン等への参加者数

○ 242人(アンケート回答者及び体験教室参加者数から算定)

キャンペーン等への参加者の満足度

○ 88.1%

満足度は、参加者の回答について、「楽しかった(A)」を100%、「まあまあ楽しかった(B)」を75%、「あまり楽しくなかった(C)」を25%、「楽しくなかった(D)」を0%とし、次の計算式で算出した。

$$100\% \times A \text{の回答数} + 75\% \times B \text{の回答数} + 25\% \times C \text{の回答数} + 0\% \times D \text{の回答数}$$

回答数の合計

3 課題

令和4年度においては11月にキャンペーンを実施しましたが、11月は水源地域でのイベント開催が多いことから、キャンペーンへの出展を見合わせるやまなみグッズ事業者も散見されたため、開催時期の検討を行っていく必要があります。

取組 8 教育活動を通じた共通理解の促進
構成事業 1 小中学校等交流事業

【計画における記載(抜粋)】

1 目的

児童・生徒等の交流を通じ、教室の中では体験することのできない「体験学習」の場を提供していくことによって、水源地域及び水源環境保全の重要性への理解促進を図るとともに、自然への関心を深めます。

2 事業内容

① 小中学校等交流の実施

水源地域と都市地域の小中学校等が互いの学校やその地域を訪問し、「環境学習」や「水循環」の視点を踏まえた体験・交流プログラム等を実施することにより、児童・生徒等に水源環境の保全や水資源の重要性についての学習機会を提供していきます。

② 交流の促進・持続

より多くの学校間の交流に広げていくため、新たな交流先を開拓していきます。また、当事業により交流した学校に対して、交流に係る協定の締結等を促し、自立した交流につなげていく仕組みを検討していきます

3 把握する実績

- 交流を実施した学校数
- 参加者の満足度

【取組状況】

1 令和4年度の実施状況
小中学校等交流の実施
・ 水源地域と都市地域の小中学校等が互いの学校やその地域を訪問し、「環境学習」や「水循環」の視点を踏まえた体験・交流プログラム等の実施を支援(別表5参照)
交流の促進・持続
・ 水源地域と都市地域の小学校の交流に対する支援を行い、中学校への支援拡大に向けて、関係機関との調整を実施
2 実績
交流を実施した学校数(参加者数)
○ 3組6校(210人)
参加者の満足度
○ 95.7%
満足度は、参加者の回答について、「楽しかった(A)」を100%、「まあまあ楽しかった(B)」を75%、「あまり楽しくなかった(C)」を25%、「楽しくなかった(D)」を0%とし、次の計算式で算出した。
$\frac{100\% \times A \text{の回答数} + 75\% \times B \text{の回答数} + 25\% \times C \text{の回答数} + 0\% \times D \text{の回答数}}{\text{回答数の合計}}$
3 課題
「小中学校等交流事業」は、将来の担い手となる児童・生徒に対して水源環境の現状や保全の重要性を共有する貴重な機会となっており、継続的な取組が望まれる一方で、前計画では、対象が小学校のみであったため、水源地域の学校数の制約から実施規模を拡大していくことが難しい状況でした。
そのため、現計画では、参加可能学校数を増やすべく、中学校への支援拡大について関係機関との調整を行ってきたところですが、中学校は学習指導要領に水源学習の単元がなく、教科学習としての事業実施が難しいことや、部活動や生徒会活動の一環として実施する場合においても、水源地域中学校側の受け入れ態勢の整備が難しいことから、中学校での交流実現には至っていません。
このことから、今後は中学校への支援制度を継続しつつ、新たなスキームについて検討を行っていく必要があります。

(別表5)小中学校等交流事業

<学校の組合せ>

	組合せ		参加人数 (人)	満足度 ^{※1} (人)			
	地域区分	学校名		A	B	C	D
1	水源	相模原市立鳥屋小	10	8	2	0	0
	都市	二宮町立一色小	26 ^{※2}	20	4	1	0
2	水源	相模原市立藤野北小	4	4	0	0	0
	都市	茅ヶ崎市立柳島小	82	62	19	1	0
3	水源	山北町立川村小	61	61	0	0	0
	都市	小田原市立山王小	27	22	5	0	0
計			210 ^{※2}	177	30	2	0

※1 満足度は、「楽しかった(A)」、「まあまあ楽しかった(B)」、「あまり楽しくなかった(C)」、「楽しくなかった(D)」の4段階で確認

※2 欠席等の理由により、交流事業参加人数と満足度調査の回答者数は一致しない。

<交流内容>

組合せ	交流内容			
		実施日	場所	内容
1	1回目	10月5日	水源地域	鳥屋小での交流、宮ヶ瀬ダム見学
	2回目	11月16日	都市地域	みかん狩り、一色小での交流
2	1回目	6月16日	都市地域	柳島小での交流、海岸散策、下水道施設見学
	2回目	9月5日	水源地域	藤野北小での交流、川遊び
3	1回目	6月9日	都市地域	海岸散策、山王小での交流
	2回目	11月29日	水源地域	三保ダム見学、川村小での交流

構成事業 2 水源地域を学ぶ体験学習事業

【計画における記載(抜粋)】

1 目的

水源地域の自然の中で、児童・生徒等が森林の保全作業等の体験を通じ、本県の水源地域の森林が果たす役割の重要性を理解し、将来にわたって、「かながわの森林」と水を守る意識を持ち続けるようになることを目指します。

2 事業内容

① 体験学習の実施

本県に暮らす児童・生徒等が、水源地域の森林で行われている水源環境保全に関する取組の見学や作業体験を行うことができるように、各市町村の教育委員会と事業の受入れ主体となる団体との調整及び体験メニューを検討していきます。

これらの実施にあたっては、引き続き「かながわ水源環境保全・再生施策大綱」による「かながわの水源環境保全・再生施策」と連携し、効果的な事業の実施を進めていきます。

② 事業の拡大に向けた検討

オンライン講座や出張講座、間伐材を活用した教材の提供など、水源環境の保全及び水資源の重要性についての学習機会の拡大を検討していきます。

3 把握する実績

- 体験学習等への参加者数
- 体験学習等への参加者の満足度

【取組状況】

1 令和4年度の実施状況

体験学習の実施

- ・ 県内小学校を対象とした、山北町での間伐等の森林保全作業やのこぎりひきなどの体験学習を実施

事業の拡大に向けた検討

- ・ 体験学習について、より多くの児童・生徒等に参加してもらうため、支援内容の精査を実施
- ・ 水源地域に行くことができない学校の水源学習を支援するため、「かながわ水源地域の案内人」を講師として学校等に派遣する、出前授業の実施を検討

2 実績

体験学習等への参加者数

○ 4校(244人)

学校名		実施日	参加人数 (人)
1	横須賀市立馬堀小	10月13日	55
2	小田原市立下曾我小	10月25日	55
3	川崎市立大島小学校	10月28日	56
4	小田原市立足柄小	11月11日	78
計			244

体験学習等への参加者の満足度

○ 99.3%

満足度は、参加者の回答について、「よかった(A)」を100%、「ふつう(B)」を50%、「よくなかった(C)」を0%とし、次の計算式で算出した。

$$100\% \times A \text{の回答数} + 50\% \times B \text{の回答数} + 0\% \times C \text{の回答数}$$

回答数の合計

3 課題

体験学習を行う場所の特性上、大型バスを駐車することのできるスペースが無いことから、より多くの児童・生徒等に参加してもらうための支援内容の精査を引き続き実施していく必要があります。